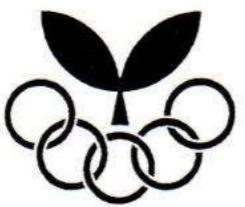
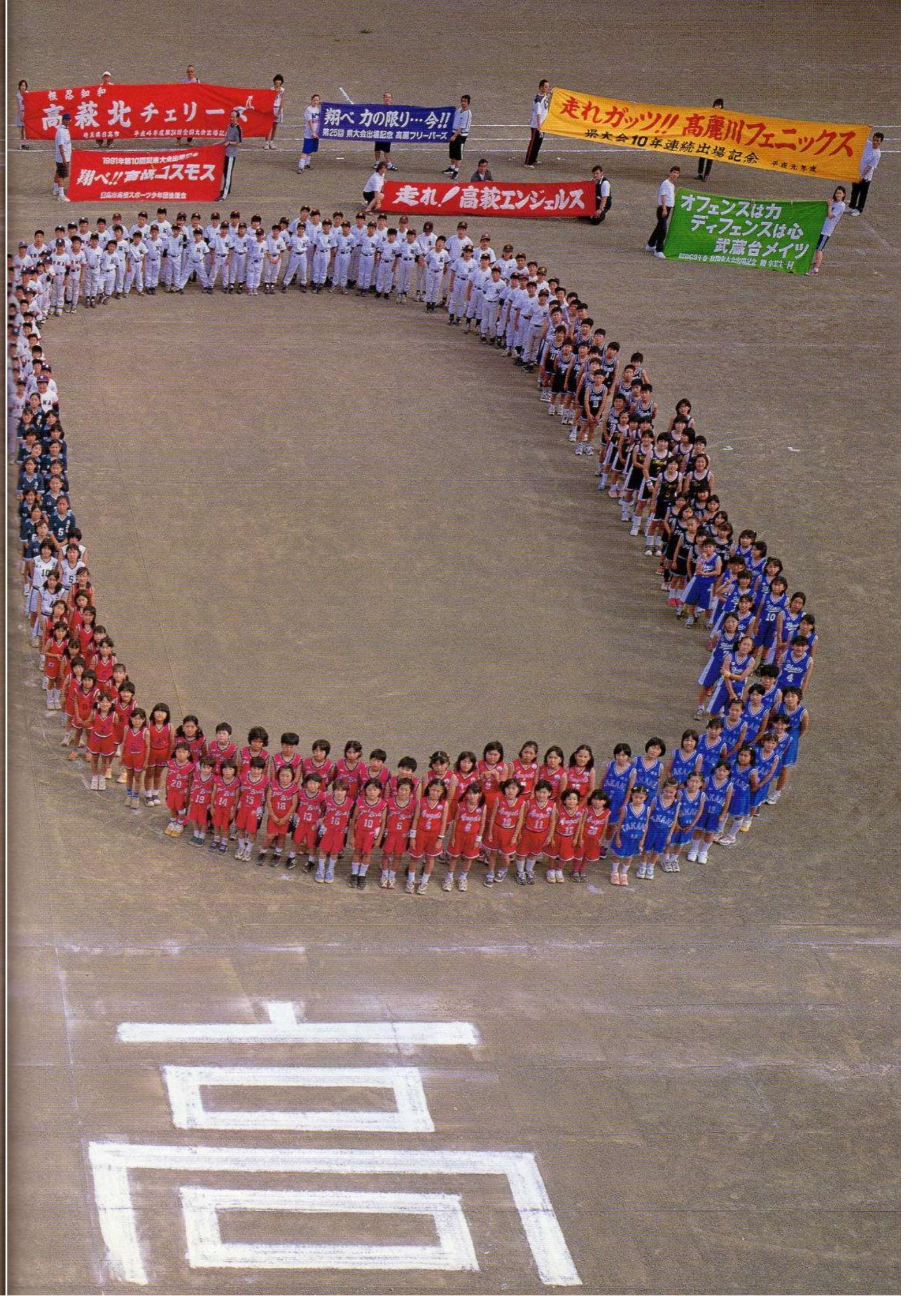


あゆみ



日高市スポーツ少年団





目 次

○ あいさつ

日高市スポーツ少年団 本部長
日高市スポーツ少年団 名誉本部長
日高市長
日高市教育委員会 教育長
日高ロータリークラブ 会長
日高市小学校校長会 会長
日高市スポーツ少年団 本部相談役
日高市スポーツ少年団 初代本部長

金島 清志 1
関 真 2
大沢 幸夫 3
石井 幸良 4
木村 貞雄 5
牧本 征雄 6
三浦 助藏 7

○ 日高市スポーツ少年団 30年のあゆみ

副本部長 岡野 一平 (昭和48年~58年のあゆみ) 8
顧問 井上 征利 (昭和 61・62年 二代目本部長) 9
顧問 宗方 紀夫 (昭和 63・平成元年 三代目本部長) 9
顧問 関 一美 (平成 2・3年 四代目本部長) 10
顧問 落合 誠二 (平成 4・5年 五代目本部長) 11
顧問 石井 忠夫 (平成 6・7年 六代目本部長) 11
故 佐藤 洋介 (平成 8・9年 七代目本部長) 12
顧問 木川 春男 (平成 10・11年 八代目本部長) 12
顧問 尾島國太郎 (平成 12・13年 九代目本部長) 13

○ 各専門部の活動のあゆみ

渡辺 清	(野球	専門部委員長) 14・15
清水 寿	(サッカー	専門部委員長) 16・17
増田 進	(ミニバスケット	専門部委員長) 18・19

○ 各団の紹介

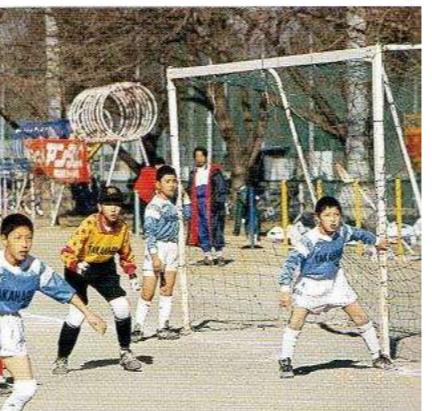
高麗川 スポーツ少年団 20・21
高 萩 スポーツ少年団 22・23
高 麗 スポーツ少年団 24・25
高 根 スポーツ少年団 26・27
高萩北 スポーツ少年団 28・29
武藏台 スポーツ少年団 30・31

○ 日高市スポーツ少年団 本部規約 32・33

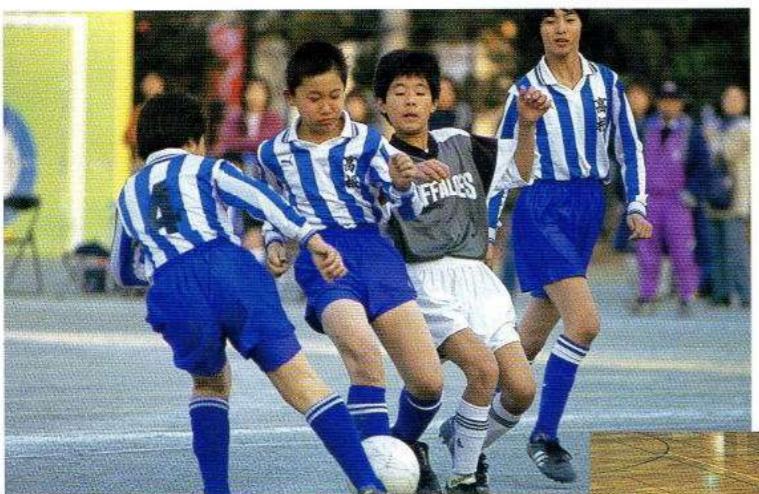
○ 記念誌発行協賛者名簿一覧 34

○ 編集後記・記念誌発刊専門委員 35

高 萩



高 根



高 麗



30周年に寄せて



日高市スポーツ少年団

本部長 金島 清志

日高市スポーツ少年団設立30周年を迎えるにあたり心よりお慶び申し上げます。又、この意義ある年に記念誌を発行し、記念式典を挙行することは、誠に限りない慶びであり関係各位に深く感謝を申し上げます。本年度におきましては、本部長という大役を仰せつかったこの年に、このような事業ができますことは、身に余る光栄とともに責任の重大さを痛感する次第です。スポーツ少年団が発足されてから30年間の「あゆみ」には、数多くのドラマが生まれ、きっと波瀾万丈であったかと思います。すでに、初期の頃の子供達が立派に社会人として大きく成長し家庭を得、今ではスポーツ少年団の指導者となり大活躍してくれております。大変ありがたいことです。これもひとえに発足以来、永きにわたり子供達の健全育成に全力を傾注してこられた、各小学校校長先生をはじめ教員の皆様、指導者の皆様、そして支えてこられた保護者の皆様には、心よりご苦労様と申し上げたいと思います。さて、日高市スポーツ少年団設立30周年を迎えるにあたり、平成12年7月8日に「設立30周年記念事業準備委員会」が発足されました。更には、記念誌発行専門委員会、記念式典専門委員会が発足され、これまでに各委員の方々には、大変ご苦労をお掛け致しましたこと厚く御礼を申し上げます。記念事業として野球、ミニバスケットボール、サッカーの各球技記念大会、記念誌「あゆみ」を発行、記念式典開催などが計画されました。これまでにサッカー記念大会を来月12月開催を残し、既に実施することができました。各記念事業を実施するにあたり如何に事業費用を捻出するか、準備委員会のメンバー苦慮した次第であります。事業費捻出は『本部費の積み立て、日高市スポーツ少年団6団の総力を結集して廃品回収を実施、島原手延べそうめん、ひやむぎ販売、日高市市民祭に参加して模擬店出店などを実施して自助努力によって資金に充てました。又、スポ少のO.B、先輩の方々や市内地域の皆様から協賛金の協力を得るなどして事業費を捻出することができました。ほんとうに心から感謝を申し上げます。終わりに、日高市スポーツ少年団の設立30周年を重ねてお祝い申し上げると共に関係皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

30周年に寄せて



日高市スポーツ少年団名誉本部長
日高市長 関 真

日高市スポーツ少年団が発足し、ここに30周年を迎えたことは非常に感銘深く、諸先輩、役員の皆様に今までのご苦労に敬意と感謝を申し上げる次第であります。

発足当時を思い浮かべますと、昭和47年高麗、高麗川、高萩の3農協が合併して日高町農協となり、私は本店（高麗川）勤務でした。ある日、私の旧制中学の先輩である平井昭三先生から、話があるので高麗川公民館に来て欲しいとの連絡がありました。伺うと平井先生、上野先生、他に若い先生が2、3人おり、「P.T.A等では大変お世話になっているが、今夜は、ぜひとも私の云うことに賛成していただきたい」とのことでした。

内容は、生徒達の希望でスポーツ少年団連盟を作りたい。そして市内のスポーツ少年団大会を開き、スポーツの振興、青少年の健全育成、相互の親睦を目的に行いたいとの話でした。については、平井先生、上野先生が副会長として実務はするからぜひ会長を引き受けってくれ」とのことでした。そのように申されても断ることも出来ず、承諾してしまいましたが、これが苦労の始まりがありました。

何事も新しいことを始めるのは大変であります。スポーツ少年団は、社会体育なので当時教育委員会に団体として認めていただくには実績を作らなければ補助金もない。そこで高萩、高麗川、高麗小学校区の単位で、少年団を結成し、指導は学校の若手の先生に担当していただきました。校庭を借用するには学校長の許可を得、学校長は怪我や事故に責任が持てないとのことで、授業が終わった後、生徒は一旦自宅に戻り勉強道具を置いて学校に戻り、野球やサッカーの練習をしました。

また、団に加入するには親の承諾を得て障害保険に加入することとし、指導者は学校の先生であるので学校の授業を最優先し、授業に差し支えなきようにするために、大変なご苦労であったことと思います。指導者は、転勤になっても日高市在住なら野球、サッカー等の指導に協力するというような応援をいたいで少年団の存続を可能にしてくれました。

発足して10年を過ぎる頃からスポーツ少年団本部と改名し、指導も保護者やOBの方々が手伝ってくれるようになり、現在の姿になってきました。冬はサッカー、夏は野球と活動も益々活発になってきました。

昭和52年頃からはミニバスケットボールの大会も開催されるようになりました。後援会は高麗少年団が最初作られました。さらに高根、高萩北、武藏台の少年団が加わり、現在の構成になりました。児童数の減少に伴う団員の減少は残念ですが、団員が何の心配もなく、練習や大会で元気よく戦っている姿を見ると、今までの苦労も忘れ快感が残る今日この頃であります。

スポーツ少年団発足30周年を祝う



日高市教育委員会
教育長 大沢 幸夫

このたび、日高市スポーツ少年団が発足30周年を迎え、その記念誌が関係の皆様のご尽力により発行の運びとなりました。この方に感謝し、みなさまと共に喜びたいと思います。

折しも今年は日韓共同開催によるワールドカップが成功裏に終了し、両国協調の新たなスタートの機会となり、また、教育改革の大きなうねりの中で、学校週5日制が完全実施され、教育史上に残る節目の歳となりました。この記念すべき歳に本市スポーツ少年団が30周年を迎えたことは特別の喜びでございます。

今日、子どもたちを取り巻く環境は厳しく、子どもたちの社会性や道徳性の欠如が指摘され、豊かな心の涵養のため、自然体験、社会体験が不可欠であり、地域や家庭の教育力を改めて強く要請され、学校、家庭、行政、地域の連携のあり方が問われております。

ところで、30周年と一口に申しますが、その間の指導者の御苦労は筆舌に表せない事が数多くあったことと思います。その御苦労に敬意と感謝を申しあげます。みなさまの活動は「清流文化都市日高の将来を担う元気な子どもたちの健全な育成を願っての営み」であり、元気な日高市づくりを支える重要な活動でございます。

貴少年団が行っております、野球、サッカー、ミニバスケットには多くの元気な日高の子どもたちが参加し、指導者の熱心な御指導を戴きながら、礼儀作法や友達との交流、体力作りに励んでいることは誠にたのもしい限りであり、関係者の御労苦に心より感謝をしております。

今後も、多くの日高の元気な子どもたちがこの活動に参加し、豊かな心と強靭な体を作つてほしいと願っております。

本誌が今日までのスポーツ少年団の30年の足跡をたどり、子をもつ市民の貴団との太いパイプ役として刊行されますことを祝い、貴団の益々の御発展を心から願っております。

スポーツ少年団結団30周年にあたって



日高ロータリークラブ
会長 石井 幸良



日高市小学校校長会
会長 木村 貞雄

スポーツ少年団結団30周年おめでとうございます。30年の歴史は山あり川ありの連続ではなかったかと推察いたしますが、その中で培ったものは計り知れないものであり、伝統もそのなかで生まれてきたものであります。

学校教育の中に社会教育を取り入れ青少年の体と心のなかに体力、思いやり、連帯感、自信、希望その他数え切れないほどのものを吸収できる機会を提供してきた訳であります。

これを支えてきた指導者は家庭や学校でなし得なかった全てのものを青少年達から引き出し教育をして社会の一員となることを願って自身の余暇、いや自分や家庭をも犠牲にして努力をされてきたことに感謝と敬意を申し上げたいところでございます。

少年少女達の明るい姿を見るときに、スポーツを通じて自分を見つめ、社会のルールを身につけ、甘えから来る行動を忘れているものなのです。そして彼らが何かに依存するとするならば、それは学校の先生であり、スポ少の指導者であり、お友達、家庭等でございます。少年少女を健全に育成するにはその一つさえ疎かに出来ません。

明るい日高を担う青少年のためにスポーツ少年団の更なる発展と指導者の皆さんのご活躍をお願いして挨拶といたします。



2002-2003年度 R. I. テーマ

祝！30周年



日高市小学校校長会
会長 木村 貞雄

30周年おめでとうございます。スポーツ少年団の維持発展にご尽力いただいた、関係各位の方々に深く謝意を表します。

30年前と言えば、私も黒髪豊富な青年教師であります。日高でお世話になる前は、飯能の学校で、スポーツ少年団の前身的なサッカー少年団を組織したり、少年サッカー大会を立ちあげたりしていましたが、高根小学校が開設されたことに伴う人事異動で、昭和48年4月同校に着任し、日高の皆様の知己を得ることができました。以来、同僚の戸田恵氏（現高萩北小校長）松下友紀氏（現川越名細小教頭）等と高根スポーツ少年団レグルスを立ちあげ指導にあたると共に、牧本征雄氏（現富士見みずほ台小校長）等と共に、日高市スポーツ少年団の草創期にかかわることができましたことは、私自身の喜びでもありました。

当時、大会運営や組み合わせ会等で使った旧市民体育館は、ひだかアリーナの完成とともに取り壊され、昔日の面影はありませんが、農協組合長だった現市長の関眞氏をはじめ、教育委員会事務局の先生方にも強力なバックアップをしていただいたことが忘れられません。私自身はその後高麗小・武藏台小と勤務校がかわり、その間に高萩北小も開校され、先発の高萩・高麗川スポーツ少年団と合わせて6団体制となりました。各団が刺激しあい、しのぎを削って競い合い、連合体としての日高市スポーツ少年団も年々充実してまいりました。30年もの間跡切れることなく継続し、発展している裏には、各地域の指導者の熱意と、保護者の深い理解があったればこそ、と草創期に多少なりともかかわった者として感謝しております。

心理学用語に「集団的一人遊び」というものがあります。複数の者が同じ場所には居るが、そのことだけで満足し、てんでにかかわりのない遊びをしている状況を指し、幼児期前半の発達段階を示しています。TVゲームやカードゲームに代表されるように、体を使わず「集団的一人遊び」の状況から脱却できない少年達が増加している今、スポーツ少年団活動を通して、ルールや約束の大切さ、自制心、努力、忍耐力、そして一つの目標に向って力を合わせることの素晴らしさを、子供達が体験を通して学び、健全に成長してくれることを校長としても願っています。

「五訓」

30周年記念誌の発行を祝つて



日高市スポーツ少年団

本部相談役 牧本 征雄



日高市スポーツ少年団

初代本部長 三浦 助蔵

今にして思うと私が取り組んだスポーツ少年団活動は大きく3つに分けることができる。第一期は創業の頃である。当時は小学校が3校の頃で組織を動かしていたのが学校関係者であった。そこには当然、学校教育的な面が強く出ていた。その中で組織づくり、事業の実施、スポ少の理解普及、単位個体の育成と多忙な時期であった。

第二期は市内に団地が造成され、学校が3校新設され、活動が拡大した頃である。大勢いの子どもたちが日高を「ふるさと」にすることになった。この子どもたちが大人になり、それぞれの道を歩みはじめ散った時、何か思うとき「ふるさと日高に帰ってこよう。」と言ってくれる、そんな思いのある活動をしたいと願い取り組んだ頃である。

その取り組みの一つが指導者の育成であった。当時はまだボランティア活動なるものが普及されておらず、「そんな暇はない」という考えが一般的であった。しかし「地域の子どもは地域が育てる」があるさとづくりの第一条件と考え、北小の団をモデル団にして取り組んだ。幸い鎌田氏（故人）との出合が、この活動を押し進めてくれた。その一つは指導者の育成である。一つの団としてのテーマを理解し、その上での指導が必要である。そこで、①指導者は誰でもどこでも分かる団の指導者用ユニホームを着る。指導者としての自覚と責任を意識する。②指導者間の交流を図る。（鎌田氏が一番苦労した部分）よく飲みよくしゃべる会を多くもち互いの理解を図る。③指導年数を3年サイクルにした。（4年5年6年とも）何もできない4年から育てて6年で卒業させる。育てる喜びを持つ。そして、④五訓の起案である。一つ家族を愛し本業を本分とす。二つ誠信望をもって子を宝とす。三つ酒を溺れず、酔って乱れず、四つ和をもって貴しとす。五つ万機は公論をもって一つとす。守れなかったのは私のみだったようである。これらを通して強固な団結力が生まれたように思う。もちろん一人ひとりの指導者の精進の上でである。大変感謝している次第である。

その他、後援会づくり、学校と団とのあり方等々、やはり課題は山積していた。その中で力強く各単位団体は育ち、ミニバス等に於いては県代表までなっていった。指導者の方々に敬意を表し筆をおく。

日高市スポーツ少年団の30周年記念を迎えるにあたり、関係各位の皆様と共に大変なつかしく、深く喜び申し上げます。昨今の学校教育等の変化には目を見張るばかりです。特に学校5日制の実施等は、これまでの学校（教師）中心ではその成果を期待する事は出来ません。それには地域に生活するすべての人達の経験や知識を結集して子供達の健全な育成のために協力体制を作らなければなりません。特に日高市スポーツ少年団の役割は大きく市民に期待されて居ります。昔の諺に「健全な精神は健全な肉体に宿る」と言われて居ますが、スポーツを通して、体と心を鍛えて、一緒に努力して目的を果たした時のよろこびや、相手の気持ちを想いやる、やさしい心等が生まれると思います。今度新たにJリーグのチアマンになった鈴木さんが、「日本のサッカーを強くするには、一番に選手の裾野を広げる事だと言っておられました。少年団の活動は正に日本サッカーの発展には無くてはならないものだと思います。子供達にまず、スポーツをする事のたのしさを教えていただきたいと思います。又近頃の新聞報道によりますと、子供達の基礎体力が年々低下していると心配されています。体格（身長、体重）は良くなっているが、体力（50M走・ボール投げ・その場飛び）等が低下しています。その原因は色々あると思いますが、スナック菓子を食べながらテレビゲームに熱中している子供達の姿が想像されます。このような子供達を1人でも多くスポーツ少年団に入団していただくための活動をお願い致します。

最後になりましたが、日高市スポーツ少年団の増々の発展と、関係者の皆様の御多幸を心からお祈り申し上げます。

（現在、宇都宮市に在住）

日高市スポーツ少年団のあゆみ（昭和48年～58年）

日高市スポーツ少年団

副本部長 岡野 一平

昭和48年1月「日高町スポーツ少年団連盟」が発足する。（高麗川、高萩）
連盟会長は、関眞（せきまこと）氏
副会長は、平井昭三、上野幸男の両氏

1月 第1回日高町長杯争奪少年サッカー大会を開催。

4月 高麗スポーツ少年団、高根スポーツ少年団が加盟。

7月 第1回日高町長杯争奪少年野球大会を開催。
独自に活動を続けていた各スポーツ少年団が、町としての組織を作るきっかけとなったのは、資金面と大会運営面からでした。当時は、各小学校の先生方が指導者をしていたのですが、まだ育成会組織もなく、試合に使う用具も学校の者を借用する事もありました。大会運営でも資金面に困り、町の補助をもらうためにも組織作りが必要だったのです。そこで、当時高萩小学校におられた平井昭三先生と高麗川小学校におられた上野幸男先生が中心となって話し合い、高萩小学校のPTA会長であった関眞氏を連盟会長にお願いし、「日高町スポーツ少年団連盟」を発足する。

昭和53年度

4月 高萩北スポーツ少年団が加盟。

連盟幹事校は高萩小。（～54）

11月 第1回日高町長杯争奪ミニバスケットボール大会を開催。
(6年4チーム、4・5年6チーム)

昭和55年度

4月 武藏台スポーツ少年団が加盟し、6スポーツ少年団となる。

連盟幹事校は高萩北小。（～55）

8月 日高町ミニバスケットボール交歓大会が始まる。

3月 日高町ミニバスケットボール新人大会が始まる。

始まる。

※スポーツ少年団のあり方について、連盟の総会で話し合いをする。

昭和56年度

5月 高萩北アンタレスが西部地区予選を突破し、県スポーツ少年団サッカー大会に出場。（県ベスト16）

1月 日高町スポーツ少年団10周年記念サッカー大会を開催。

近隣より10チームを招待し、16チームによるトーナメント戦。

高根レグルスが優勝。

昭和57年度

連盟幹事校は武藏台小。（～58）

8月 10周年記念野球大会を企画したが、悪天候のため中止となる。

11月 5周年記念ミニバスケットボール大会を開催。近隣市町村より招待したチームを含めたトーナメント戦。

3月 第1回4年生サッカー大会開催。

※埼玉県スポーツ少年団に加入するかどうかの話し合いがなされる。県体育局の藤沼氏を招き、スポーツ少年団の説明会が持たれる。

昭和58年度

4月 「日高町スポーツ少年団連盟」を「日高町スポーツ少年団本部」とし埼玉県スポーツ少年団に加入する。

本部長は、三浦助蔵氏。

野球・サッカー・ミニバスの各専門部により大会運営を行う。

日高町教育委員会社会教育課が窓口となる。

5月 日高町スポーツ少年団が、県より「しらこばと賞」を受ける

8月 野球のBC大会が始まる。

日高市スポーツ少年団の思い出



顧問 井上 征利

(昭和61・62年度 二代目 本部長)

日高市スポーツ少年団30周年記念誌を発行出来る事を皆様と共に心からお慶び申し上げます。私が本部長をしていました今から15年前は各団とも今の団員数の二倍近くの団員がおり活発な活動をしておりました。指導者にも保護者の方や地域の者が多くなり指導者相互の交流や野球、サッカー、ミニバスの各委員会も活発に動き出した時期もありました。特に野球専門委員では新入団員をどのように野球に親しみ仲間づくりをするかまた保護者の皆様にどのように協力していただかなど各団の運営上基本的なこともよく話し合っていました。野球の技術向上をめざしあの有名な田渕選手や秋山投手、田宮選手の3名を招待しての野球教室を開催し終了後河原でバーベキューをしてひとときを過ごしたことを懐かしく思い出されます。30周年を迎える指導者の皆様には今こそボラ



顧問 宗方 紀夫

(昭和63・平成元年度 三代目 本部長)

古い話になりますが、子供が高麗川アニマルズでお世話になったのがきっかけで高麗川スポーツ少年団の団長を経て本部の持ち廻り制度により本部長をさせていただきました。

本部長の前任者は高麗の井上征利さん、後任は高萩の関一美さんの記憶があります。

活動に際して現場の経験が必要とのことで尾島さん（高麗川、KOスポーツ）の助言により約半年だけでしたが野球のコーチをしたことがその後で役立ちました。

当時、社会体育の位置づけが関係者間でややもすれば理解不十分な所があり、とくに学校との関

係が大切で春の先生方の移動には気をもんだりしました。

本部の会議に際しては教育委員会の担当の方々が上手く運営されました。担当の方々とも気心が知れた頃、他部署へ移動、多少残念な心境でした。

一方、児童の数が減少の“はしり”の時もあり、これから各団と本部の運営もむずかしくなるとの話も出始めたものです。

子供達の育成を考えるときに監督さんやコーチの役目は本当に大切です。

学校5日制が実施された現在、スポーツ少年団の意義は大なるものがあります。



顧問 関 一美

(平成2・3年度 四代目 本部長)

日高市スポーツ少年団設立30周年おめでとうございます。

長年に渡る名指導者の、ボランティア精神に溢れた指導と、歴代の本部長さん、各団長さん、各委員の皆様の努力のお陰で30周年の長きに渡り、社会スポーツとしての活動が行なわれて来たものと思います。

私も平成2年、3年と本部長として職務を熟してこれたのも当時の役員の御協力のお陰と、心より感謝しております。

平成14年4月21日ひだかアリーナの柿落とは、関市長さんを初め関係各位の御配慮を頂き、日高市6つの少年団ミニバスケットを試合が行なわれました。それに先立ち、テープカットも6名のキャプテンが、関市長さん、金子議長さん、大

母体となる後援会も充実の方向とか、ありがたい事です。

日高産業の大沢さんには太平洋セメント様のブランド借用に際してお世話になりました。残念な事は高根の松田さん、高麗川の田中さんが急逝されたことです。

今後を考えるに、関眞市長が初期の本部長、そして現在の名誉本部長であり其の理解者であり心強いものがあります。

今後も発展していかれることを希望しております。



顧問 落合 誠二

(平成4・5年度 五代目 本部長)

るのでしょうか。

まだまだ少なく、自分達が教えた子供達に次の時代を任せるとここまで至っていないのではないかと思われます。長いと思われる30年も人を育てるには、まだ時間不足かも知れません。私の本部長の時既に、今後の問題としていた減少傾向の団員の確保、学校5日制移行後の受け入れ等が現実となってきました。

本部長をはじめ、各団、各指導者等関係者の皆様には大変な事とは思いますが、30周年を期にお一層のご活躍をご期待申し上げると共に、次代の良き後継者育成の為の少年団活動のご発展を祈念し、お祝いの言葉と致します。



顧問 石井 忠夫

(平成6・7年度 六代目 本部長)

り、団によっては小学校1年生より加入を認める団が出てきました。この問題は今でも一番大事な事ではないかと思っています。

スポーツ少年団と学校の関係は一番大切な事ですが、当事関係が希薄化しておりましたので、年に数回、校長先生、教頭先生、と本部役員、各団長、と懇親の場を設けお互に問題点を出し話し合いました。その後は毎年やっていると思いますが、学校との関係がスムーズになりました。

当時は名誉本部長（現市長）の関眞氏にお願いしまして、現在でもミニバスで使用している横断幕をご寄付いただき、それ以後のミニバス大会でも日高市スポーツ少年団をPR出来るようになります。心から感謝しております。



私の後を引継いでいただいた、佐藤洋介本部長が、志半ばで逝去されました事は、大変残念でなりませんでした。

終りに、日高市スポーツ少年団の限りなきご発展をご祈念申し上げます。

故 佐藤 洋介

(平成11年3月6日 永眠)

(平成8年・9年 七代目 本部長)

佐藤本部長は高根スポーツ少年団の団長を長年務め後、市本部長として各団を取り纏めて頂きました。当時は何をどのようにするのか解らず前本部長の石井さん、村端さんから色々とアドバイスを頂きながらあつという間の2年間がありました。

佐藤さんは子供が大好きで常に試合の時は顔を出し大きな声援をして頂いたものです。子供にはやさしいかったのですが指導者へは意外と厳しい人だと感じました。特に子供を指導する上で指導者同士、又関係者とのコミュニケーションが大切だと良く言っていました。学校長との懇親会の場

を設けたり各部会の会合などへ出掛け今後の活動など色々と話したものでした。当時副本部長の木川さんとのコンビは絶妙でした。

当時も団員数不足によるチーム構成や入団募集年齢のベース、そして一番の悩んでいた事は「子供はやりたいが、親が役員出来ないから入れられない」など色々な事があり本部長を歴任後も活動されました。

30周年のあゆみとして佐藤さんの活動された心の1ページを載せさせて頂きました。

筆：当時本部幹事 吉田 久志

顧問 木川 春男

(平成10年・11年 八代目 本部長)

30周年を迎える、心よりお慶び申し上げます。市教育委員会、各小学校関係者、地域の方々、特に、



指導者の皆さん方の、ご苦労、継続して来られた事に、敬意を表したいと思います。

私は、平成10年、11年度の2ヶ年、本部長を努めました。スタッフの皆さん、いろいろな方々に、支えられた事、感謝申し上げますと共に、いろいろな事が、思い出として残っています。その一つに『スポーツ少年』という雑誌の中で、地域と連携する学校型スポーツ少年団という事で、日高市の少年団が、各学校と大変より関係に有り、地域とも連携して、活動も活発になり、子供達の健やかな成長を願う、学校関係者とスポーツ少年団の関係者が、協力し合いながら、発展して来たという事で、本部の皆さんと、座談会形式での話が掲載され、関係者の一人として、大変喜ばしく思いました。



この度、日高市スポーツ少年団創立30周年を迎え、記念誌が刊行出来ました事を皆様と共に慶び申し上げます。

私のスポーツ少年団との係りは、昭和52年に開業し高麗川小へ伺った折、現在相談役の牧本先生との会話の中で、私がサッカーの経験がある旨の話をした所、スポーツ少年団のサッカー指導者を依頼された事がはじまりです。

その当時の高麗川スポーツ少年団は4年生ら6年生迄各学年2チーム編成で、定員が約30名と枠が決まっていた関係で希望者全員が入団する事は不可能でした。4月に50m走とボール投げの入団テストを実施し足切りを行なっていたとの事で、なぜ希望者全員が入団出来ないのか聞いたところ、先生方の指導者数に限りがあり、特にサッカー指導者が不足しているとの事でしたので、私でも

今、少子化に伴い、又、積極的にスポーツに参加しない子供たち、スポーツの素晴しさを、理解して頂けない親たちが、多くなっている事も、一方に有りまして、団員の減少につながっている事は、残念に思います。

関係者の皆さん、指導者の皆さん、今後共スポーツを通して、子供たちの健やかな心と体の成長の育成を、宜しくお願いします。

私も、手助け出来る事を、1サポーターとして応援していくつもりです。

最後になりますが、日高市スポーツ少年団の発展を、心より祈念申し上げます。

顧問 尾島國太郎

(平成12・13年度 九代目 本部長)

多少お役に立てるのではないかと思い引き受けさせていただく事となり、初年度は6年生と5年生のA & Bチーム補欠を集めて6年Cチームを編成し、担当致しました。

その年の町長杯で準決勝迄進出し、3位に入賞した結果、子供達（特に6年生）が泣いて喜んでいる姿を見て心を打たれ、やりがいを感じ今日に至っております。

当時の子供達の遊びは今日程多様化してませんでしたので、サッカーに対する興味があり、取り組む姿勢が純粋で探求心に満ちていて、一言一言を聞き洩らすまいと目を輝していた姿が今ではなつかしい思い出です。

今後も、日高市スポーツ少年団が益々の御隆盛を続けられん事を御祈念申し上げます。

日高市スポーツ少年団専門部紹介

野 球

委員長 渡辺 清

一年間の大会日程

3月最終日曜日 スポーツ少年団交流大会開会式
(県営大宮球場)
(この大会は、8月中旬より西部ブロック大会予選、そして県大会の出場をかけた開会式であり、この開会式に出場しなければ、参加資格がなくなる。)

4月中旬 市内6年生 リーグ戦
この大会より全軟連少年野球(全日本)の選抜チーム 選手・選抜 そして市内市長杯のシード権を得る。

5月中旬 スポーツ少年団西部ブロック大会
前年度 市長杯、野球連盟会長杯の2大会の1位~3位が市代表となる。

5月下旬 西部地区少年野球連盟大会
(初雁球場)
(旧東上沿線大会)
6年の部 5年以下の2部の大会です。

5月下旬 全日本学童野球県大会
全軟連入間西支部(日高・毛呂山・越生)代表として出場。
(6年リーグ戦選抜選手で全日高として)

6月中旬 市内5年生リーグ戦
14年度より開催することになりました。

7月中旬 日高市長杯
6年・5年・4年以下3部の大会
夏休みに入ってすぐの大会(海の日前日)
6年 1位~3位が西部ブロックの代表となり、この開会式に出場しなければ、参加資格がなくなる。)

7月下旬 飯能地方防犯大会(飯能市民球場)
飯能警察と防犯協会の子供育成大会

8月中旬 市内4年生大会
4年生の技術向上の為の大会

8月中旬 スポーツ少年団西部ブロック大会
市長杯1位~3位代表が参加

8月下旬 飯能・日高ジュニア交流大会
飯能・日高で隔年開催

9月下旬 日高市野球連盟会長杯
市内5年生大会
野球連盟会長杯終了後、高麗・高根・高麗・高萩北・高萩の5団はサッカーに切替となります。武藏台は、サッカーと野球が別になる為、武藏台は、近隣は市・町・村の大会に加しています。

9月中旬 野球部会指導者の慰労会(秩父)

【野球】日高市長杯争奪大会成績

回数	年度	6年生の部			5年生の部			4年生の部		
		優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
1	48	高萩A								
2	49									
3	50	高萩A								
4	51	高麗川A	高麗川A			高萩A				
5	52	高根A	高萩C		高根B	高萩A	高麗川A			
6	53	高麗A	高麗川A	高根A	高根B	高萩北A	高麗川A	高根A	高根C	高根B
7	54	高麗川A		高麗A	高麗川A	高萩A	高麗A	高萩北A	高根A	高萩A
8	55	高根A	高麗川A	高萩A	高萩北A	高萩A	高萩北B	高根A	高萩北A	高麗川A
9	56	高根A		高麗川A		高萩A		高麗川A	高根A	
10	57	高萩A	高萩北A	高麗川A	高萩A	高根A	高麗川A	高根A	高萩北A	高麗川A
11	58	高根A	高麗川A	武藏台A	高根A	高麗川A	高萩A	高麗川A	高根A	高萩A
12	59	高麗川A	高萩北A	高萩B	高萩A	高萩北A	高麗川A	高根A	高麗川A	高萩A
13	60	高麗川A	高根A	武藏台A	高根A	高萩A	高麗川A	高麗川A	高根A	高麗川B
14	61	高根A	高萩A	高麗川B	高麗川A	高萩A	高根A	高萩A	高根A	武藏台A
15	62	高麗川A	高萩A	高根A	高萩A	高根A	高萩北A	高根A	武藏台A	高萩A
16	63	高麗川A	高萩A	武藏台A	高萩A	高根A	武藏台A	高根A	高萩A	武藏台A
17	1	高麗川A		高麗A	高萩A		高萩北A	高萩A		高麗川A
		高萩北A		武藏台A	高麗川A		高根A	高萩北A		高根A
18	2	高萩A	武藏台A	高根A	高麗川A	武藏台A	高萩A	高萩A	武藏台A	高麗川A
19	3	高麗A	武藏台A	高萩A	武藏台A	高萩A	高麗川A	高萩A	武藏台A	高萩北A
20	4	武藏台A	高萩A	高麗川	高萩A	武藏台A	高麗川	武藏台A	高萩A	高麗A
21	5	高萩A	武藏台A	高麗川A	高麗A	武藏台A	高萩A	武藏台B	武藏台A	高根
22	6	武藏台A	高萩A	高根A	武藏台A	高根A	高萩北A	高萩北A	武藏台A	高萩A
23	7	武藏台A	高根A	高麗A	武藏台A	高萩北A	高根A	高萩A	高麗川A	高萩北A
24	8	武藏台A	高萩A	高麗川A	高萩A	武藏台A	高麗A	武藏台A	高萩A	高麗川A
25	9	高萩A	高萩北A	武藏台A	高麗川A	高麗A	高萩A	武藏台A	高麗川A	高萩A
26	10	高麗川A	高萩A	高麗川B	高萩A	武藏台A	高麗A	高萩北A	高萩A	高麗川A
27	11	武藏台A	高萩A	武藏台B	高麗川A	武藏台A	高萩北A	高麗川A	高萩A	武藏台A
28	12	高根	高麗川A	高萩北	高麗川A	高萩	高萩北A	武藏台	高麗川A	高萩
29	13	高萩	高麗川	武藏台	高麗川	武藏台	高麗	武藏台	高萩	高根
30	14	武藏台	高萩	高麗川A	高萩	高麗	武藏台	高麗川	高根	高萩北

日高市スポーツ少年団専門部紹介

サッカー

委員長 清水 寿

一年間の大会日程

【5月上旬～8月上旬 全日本少年サッカー大会】

県内各地（日高は西部地区）の予選勝ち上がりチームで県大会を行い、優勝チームが全国大会へ出場する。

この大会が、唯一の全国規模の大会である。

【8月下旬 西部地区少年サッカー育成大会】

この大会は、西部地区の中で行われる学年単位の大会である。

【9月中旬・2月上旬 四市少年サッカー大会】

狭山市、入間市、飯能市、日高市の各地区のチームが参加して行われる大会である。

9月が6年生の部、2月が5年生の部であり、それぞれ各団の代表として出場している。

【9月下旬・1月下旬 青梅武蔵少年サッカー大会】

東京青梅地域と埼玉西部地域対象の大会であり、4～6年の各学年に分かれて行われる。

また、2月上旬には3年生によるミニサッカー大会も行われる。

【10月中旬～11月下旬 県少年サッカー大会】

春の県大会と同様に県内各地（日高は西部地区）で予選を行い、勝ち上がったチームが県大

会に出場する。

県大会を勝ち上がっていいくと「埼玉スタジアム」で試合をすることができる。

【12月上旬～2月上旬 NTTカップ少年サッカー大会】

5年生以下対象とした、県少年サッカー大会と同様の大会。県内各地区（日高は西部地区）の予選を勝ち上がったチームで県大会を行う。

勝ち上がっていいくと、「埼玉スタジアム」で試合をすることができる。

【12月上旬～下旬 日高市長杯争奪少年サッカー大会】

市内各団全チームが参加し、3～6年生の各ブロックに分かれて行われる大会であり、より多くの試合が経験できるように予選リーグ、決勝トーナメント方式で行われる。また、3年生については6人制のミニサッカーで試合を行う。

【2月中旬 日高カップ少年サッカー大会】

市長杯と同様に4～6年生の各ブロックに分かれており、4、5年生の部はトーナメント方式、6年生の部は市外チームを招待して予選リーグ、決勝トーナメント方式で行われる。

【サッカー】日高市長杯争奪大会成績

回数	年度	6年生の部			5年生の部			4年生の部			3年生の部		
		優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
1	47	高萩A	高麗川A										
2	48	高萩A											
3	49		高麗A										
4	50	高麗川A											
5	51	高麗川A	高萩A		高根B								
6	52				高根A								
7	53	高麗川A	高萩北A	高根A	高萩北A	高根A	高麗川A	高麗川A	高根A	高萩北A			
8	54	高麗川A	高根A	高麗A	高麗川A	高萩北A	高萩A	高萩北A	高根A	高萩北B			
9	55	高麗川A	高萩A	高萩北A	高萩北A	高根A	高萩A	高萩A	高萩北A	高萩北B			
10	56		高萩A	高根A	高萩A	高麗川A		高萩A		高麗川A			
11	57	高萩北A	高根A	高麗川A	高萩北A			高萩北A	高根B	高萩A			
12	58	高萩A	高麗川A		高萩北A	高根A		高萩A	高萩北A	高萩B			
13	59	高萩北A	高根A	高麗A	高根A	高萩北A	高萩北B	高根A	武藏台A	高萩北A			
14	60	高萩A	高根A	高萩北A	高根A	高根B	高麗川A	高萩北A	高根A	武藏台A			
15	61	高麗川A	高萩A	高根A	高萩北A	高萩北B	高麗川A	高萩北A	高根A	武藏台A			
16	62	高萩北A	高麗川A	高萩A	高萩北A	高麗川A	武藏台A	高萩北A	高根A	武藏台A			
17	63	高萩北A	高麗川A	高根A	高萩北A	高麗川A	高根A	武藏台A	高根A	高萩A			
18	1	高萩北A	高麗川A	高根A	高萩北A	高萩北B	高萩A	高萩北A	高根A	高麗川C			
19	2	高萩北A	高萩A	高麗川A	高麗川A	高萩北A	高根A	高麗川A	高萩北A	高麗川B			
20	3	高麗川A	武藏台A	高麗川B	高麗川A	高麗	高根A	武藏台A	高麗川A	高根A			
21	4	高萩北	高麗川	高麗	高萩北	高麗川	高根	高麗川	高萩A	高萩北			
22	5	武藏台	高萩北A	高麗川A	高萩北A	高萩	高麗川A	武藏台	高麗A	高萩北A			
23	6	高麗川A	武藏台	高萩北A	高麗A	高萩北A	高麗川A	高萩A	武藏台A	高萩北A			
24	7	高麗A	武藏台A	高萩北A	武藏台A	高萩北A	高麗川A	高萩北A	高麗川	武藏台A			
25	8	高萩北A	高萩A	高麗A	高萩北A	高麗川A	高麗A	高萩北A	武藏台A	高麗川A			
26	9	高萩北	高麗	武藏台	高萩北	高麗川	武藏台	高麗	武.根合同チーム	高麗川			
27	10	武藏台	高萩北	高萩	武藏台	高麗	高萩北	高萩北	武藏台	高麗川			
28	11	武藏台	高萩	高麗川	高萩北	高麗川A	高萩	武藏台	高萩北	高麗川			
29	12	高麗川	高根	高萩北	高麗川A	高萩北	高麗川B	武藏台	高萩	高麗			
30	13	武藏台	高麗川	高萩北	武藏台	高萩A	高麗	高萩	高麗	高萩北	高根	高麗川	高麗

日高市スポーツ少年団専門部紹介

ミニバスケットボール

委員長 増田 進

一年間の大会日程

6月 「スポーツ少年団大会・西部地区ミニバスケットボール大会」

埼玉県スポーツ少年団および埼玉県ミニバス連盟に加盟しているチームにより争われる大会。勝ち上がると関東大会への道が開かれる。また秋の県大会（西部地区大会）のシード権がかかる。

7月 「フレッシュミニバスケットボール大会」
NTTドコモの後援で、小学校4年生以下の大会バスケットボールを始めたばかりの子供たちにもゲームの楽しさを味わってもらおうと企画された。優勝争いはなく、試合毎にがんばった子供にたいして個人表彰をもうけている。

「カワセミ杯ミニバスケットボール大会」

日高市スポーツ少年団の主催する大会で、日高市ロータリークラブの後援を得て昭和60年度からスタート。普段、ゲームに参加する機会の少ない5年生以下の子供たちのための大会。市内のチームと近隣の招待チームにより、優勝を争う。

8月 「日高カップミニバスケットボール大会」

日高市スポーツ少年団の主催する大会で、毎年8月に市内のチームと県から推薦された各地区の好チームを招待して行われる。今年で12回目を迎えるが、毎回各地区の上位チームが参加しており、秋の県大会の行方を占うレベルの高

い大会として注目されている。

9月 「西部地区ミニバスケットボール大会・埼玉県大会予選」

秋の県大会出場をかけて西部地区のチームにより争われる。11月の県大会には西部地区より上位5チームが出場できる。

12月 「日高市長杯争奪ミニバスケットボール大会」

日高市内の全チームが参加して、市長杯をかけて、優勝を争う。これまで4年生以下、5年生、6年生のブロックに分けて優勝を争う大会であったが、現在はA・Bブロックに分けて大会を行っている。大会は3日間にわたり、総当たり戦で行う。

1月 「埼玉県ミニバスケットボルトーナメント大会」

チームのレベルに合わせて参加できる県主催のトーナメント大会。会長杯、理事長杯、育成杯があり、会長杯で勝ち上がると、全国大会への道が開かれる。日高市からは、平成3年度に高根コスモス、平成4年度に高萩北チエリーズと2年連続で全国大会に出場した。

2月 「春季ミニバスケットボール大会」

日高市内のチームの新人戦。5年生以下の編成で、次年度の新チームとして初めての大会となる。

【ミニバスケット】日高市長杯争奪大会成績

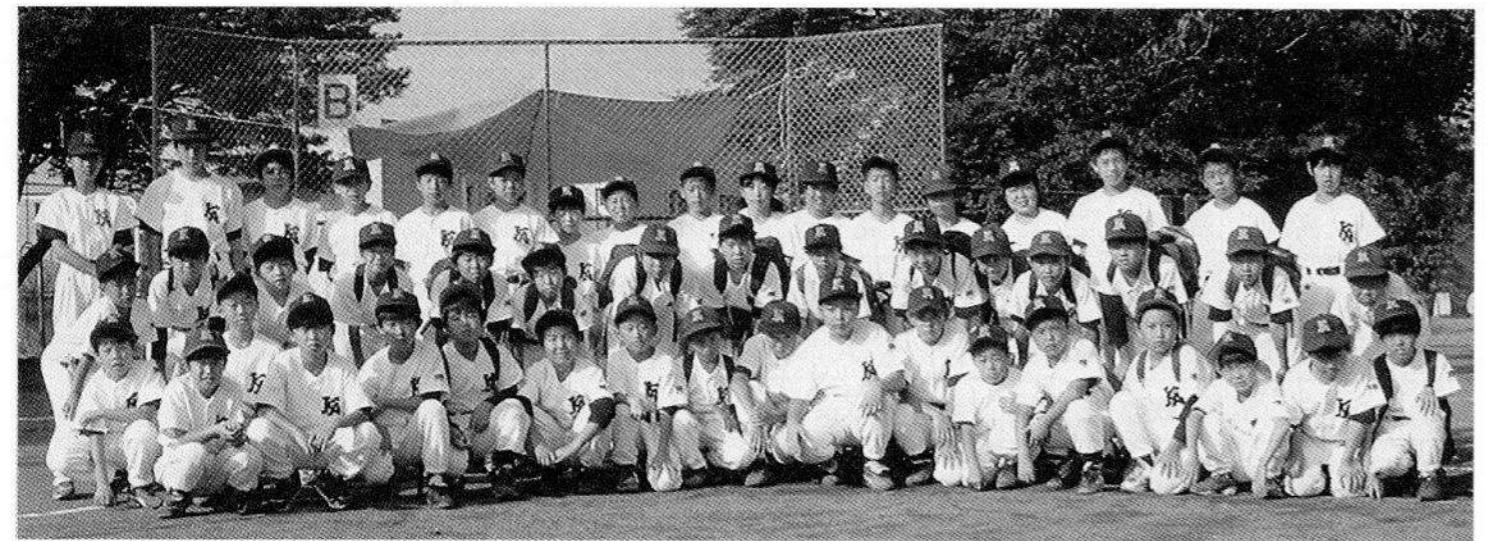
回数	年度	6年生の部(Aブロック)			6年生の部(Bブロック)			5年生の部			4年生の部		
		優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
1	53	高根	高麗川	高萩				高麗川A	高根A	高萩北A			
2	54	高麗川	高萩	高根				高萩北A	高麗川A	高萩A	高根A	高麗川A	高萩北A
3	55	高萩北	高麗川	高根				高麗川A	高根A	高萩北A	高麗川A	高萩北A	高根A
4	56	武藏台	高根	高萩北				高麗川A	高萩A	高根A	高根A	高萩北A	高麗川A
5	57	高麗川	高萩	武藏台				高萩A	高萩北A	高根A	高麗川A	高根A	高萩A
6	58	武藏台	高根	高麗川	高根	高萩北		武藏台A	高萩A	高根A	高麗川A	高根A	高萩北A
7	59	武藏台	高麗川	高根	高根	高萩北	高萩	高根A	高麗川A	武藏台A	高萩北A	高麗川A	高根A
8	60	武藏台	高根	高萩北	高麗川	高根	高麗	高萩北A	高根A	高麗川A	高萩北A	高麗川A	高根A
9	61	高萩北	高麗川	高根	高萩北	高根	高萩	高萩北	高麗川	高萩	高萩北	武藏台	高萩
10	62	高麗川	高萩北	武藏台	高麗川	高萩	高麗	武藏台	高萩北	高麗川	高麗川	高根	高萩北
11	63	武藏台	高萩北	高萩				武藏台	高根	高萩北	高萩北	高麗	武藏台
12	1	高根	武藏台	高萩北				武藏台	高萩北	高麗	武藏台	高麗川	高萩北
13	2	武藏台	高萩北	高麗				高根	高萩	高萩北	高萩北	高麗川	高根
14	3	高根	武藏台	高萩北				高麗川	高根	高萩北	高萩北	高麗川	高萩
15	4	高麗川	高根	高萩北				高萩北	武藏台	高麗川	高麗	高萩	高萩北
16	5	高麗川	武藏台	高萩				高根	高麗	高萩北	高萩	高麗	高萩北
17	6	高根	武藏台	高萩北				高萩	高麗川	高麗	高麗	高根	高萩北

		Aリーグ(女子の部)			(男子の部)			Bリーグ(5年生以下)					
		高麗	高萩北	高麗川	高麗川			高根	高麗	高萩北			
18	7	高麗	高萩北	高麗川	高麗川			高根	高麗	高萩北			
19	8	武藏台	高麗	高萩北				高根	高麗	高萩			
20	9	高麗川	高根	高麗				武藏台	高根	高麗			
21	10	高根	高萩	武藏台				高萩	高麗川	高麗			
22	11	高萩	高麗	高萩北				高萩北	高麗	高萩			
23	12	高萩	高萩北	高根				高麗	高萩	武藏台			
24	13	高麗	高麗川	高萩北				高萩北	高麗	高萩			

各 団 の 紹 介

高麗川 スポーツ少年団

創立年月日 昭和47年4月1日
代表者 多田 威
活動場所 高麗川小学校
指導者数 33名
団員数 84名（男子66名 女子18名）



昭和46年当時高麗川小学校教諭であった。渡辺俊雄氏の指導のもとに、高麗川少年サッカーチームができ、このチームが我が高麗川スポーツ少年団の前身であり、翌47年、高麗川スポーツ少年団が誕生し、30年になりました。

当時、団員の指導に当たられたのは、先の渡辺氏と同じく高麗川小学校教諭、牧本征雄氏でした。団員は高麗川小学校4年5年6年生、約70名でスタートしました。翌48年からは野球の活動も始まり、49年度より奉職された、秋吉憲司氏には、野球を中心に指導していただきました。飯能大会での、連続優勝や、幾多の大会の中でも参加チームが多く難関と言われていた、西部地区大会（東上沿線大会）の上位入賞など、輝かしい戦績を残し高麗川アニマルズの名を、県西部に高めることになりました。平成になってからは県大会にも出場をはたしました。平成12年から野球、サッカーに女子の選手も入団して男子に負けずに活躍して

います。

高麗川スポーツ少年団の始まりの、サッカーは、町、市長杯はもとより4市大会など輝かしい、実績を誇っています。平成12年度より青梅、武藏サッカー交流大会など幅ひろく活動を行っています。平成3年度同校教諭で、指導者の、杉浦先生を最後に、同校関係の指導者は、いなくなり、現在母集団の中から指導者とスポーツ少年団OBの指導者となり、明日の大リーガー、そして、Jリーガーを目指して時には厳しく、また楽しくスポーツの素晴らしいことを、モットーに「和」を大切に活動しています。更に平成7年度からは、3年生から入団し活躍しています。

同じく49年には女子のミニバスケットチームフェニックスが誕生しました。女子にも、是非スポーツの場をと言う声があり、当時の同校教諭鹿山喜代子（現姓小田）に指導をお願いしました。5年6年生20名程度でスタートしました。翌50年には



4年生も入団し団員も増えて、同校の先生の指導の基に学年毎の指導体制が確立しました。ミニバスケットチームは県大会25回、連続17回出場更に関東大会の出場と輝かしい活躍で県内はもとより関東にも、フェニックスの名は広くしられています。また埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会に第1回より出場し3回の優勝と毎回上位入賞という、輝かしい成績をのこしています。平成7年より市内では、初の男子ミニバスケットチームが発足し活躍しています。アニマルズ同様指導者も母集団の中からの指導者、スポーツ少年団OBの指導者となり時には厳しく、また楽しく指導しています。また2年生も準団員として受け入れスポーツの楽しさ素晴らしさを実感させています。

学校5日制となり土、日曜日の過ごし方もそれ

ぞれありますが、スポーツ少年団で仲間作りと、健全な心と体力作りに、もっと仲間を増やして行きたいと考えています。野球にサッカーにそしてミニバスケットと、団員の、熱き戦いを観戦、応援そして、練習に父母の方々からも暖かいご援助を頂いています。

高麗川スポーツ少年団は、初代団長大沢利一氏から現団長多田威氏まで5代の団長と、初代後援会長大沢利一氏からは現会長角田満氏まで28代に渡る会長の基、特に大沢利一氏には発足以来、団、後援会の基礎作りに多大な貢献を頂いて現在も、顧問で活躍されています。指導者も一丸となり、団員の健全育成を目標に、いくたな壁に、ぶつかりながらも、素晴らしい高麗川スポーツ少年団の、更なる発展のため努力しています。



高萩 スポーツ少年団

＜高萩スポーツ少年団の紹介＞

高萩スポーツ少年団も今年、30周年を迎えることになります。

高萩小学校の体育主任であった、故平井昭三先生を中心に日高市のスポーツ少年団を創立した関係もあり、高萩小学校、高麗川小学校が、一番早く活動を開始しました。

スタート当時は、指導者のほとんどが教員であり団の運営についても、先生方の手弁当で大変苦労されたと聞いています。ただただ、子供たちの体力の低下を感じ、学校教育とは別に「スポーツを通して子供たちの心身を鍛えたい。」との熱意と努力に対して敬意を表したいと思います。

現在は、地域の一般指導者を中心にスポーツ活動を行い、保護者を中心として後援会活動を行うなど子供たちがのびのびと活動できる環境が整ってきておりますが、これらは、先人達の熱意と長年の努力によって培われてきたものであることを思い、その精神は、次の世代へと引き継いで行かなければならぬものであると考えます。

＜活動内容＞

高萩ジャックス、高萩エンジェルスの2つのスポーツチームが活動しています。

高萩ジャックスは、4月から9月までが「野球」、9月から3月までは「サッカー」と年間2種目のスポーツを行っています。

高萩小学校のグラウンドをベースにして、平日は、放課後に指導者の都合がつくかぎり、毎日練習をおこなっています。土曜日・日曜日は、練習、練習試合又は各種大会への参加など、活発な活動を行っています。

現在は、各学年(6年生、5年生、4年生以下)でそれぞれチームを作つて活動しています。又、最近は、男の子だけでなく女の子もチームに参加して活躍するようになり、コーチの指導の仕方も少し変わってきたかな?と思われます。ただ、少子化傾向などにより、年々団員不足の状態で、学年ごとのチームが組めなくなることが心配されます。

創立年月日 昭和47年10月1日
代表者 関口富之
活動場所 高萩小学校
指導者数 35名
団員数 74名(男子54名 女子20名)

今後、少年団活動の必要性のピーアールと魅力ある少年団作りをしていかなければなりません。

高萩エンジェルスは、1年間を通してミニバスケットボールを行っています。かつては、ジャックスと同じように各学年ごとにチームを作つて活動していましたが、現在は全学年で1チーム作るのがやっとの状況です。参加する大会の趣旨にあわせてチームを編成しながら活動しています。高萩小学校の体育館をベースに、練習は平日2日、土曜日・日曜日は、練習および練習試合・各種の大会への参加を行っています。



＜組織および団員数＞

創立	昭和47年初秋
役員	名誉団長 関一美 団長 関口洋 副団長 渡辺亨 浜澤洋 瀧岡充 松本隆 斎藤昌 金城充 鳥居隆 宮前昌 豊島晴 高橋隆 今井己 吉野子 村木章 桜田雄
後援会役員	会長 関口洋 副会長 長岡充 松本洋 瀧岡充 浜澤洋 渡辺亨 瀧岡充 松本洋 斎藤昌 金城充 鳥居隆 宮前昌 豊島晴 高橋隆 今井己 吉野子 村木章 桜田雄
指導者	野球 関口洋 副会長 長岡充 松本洋 瀧岡充 浜澤洋 渡辺亨 瀧岡充 松本洋 斎藤昌 金城充 鳥居隆 宮前昌 豊島晴 高橋隆 今井己 吉野子 村木章 桜田雄

サッカー	萩原直之 平沼良政 川内明弘 神細工政人 中出隼人 秋山佳由 清水裕太 岡野一平 増田進 北村恵子 渡辺久子 石井良明 田川優子
ミニバス	萩原直之 平沼良政 川内明弘 神細工政人 中出隼人 秋山佳由 清水裕太 岡野一平 増田進 北村恵子 渡辺久子 石井良明 田川優子

団員数	ジャックス	6年生 23名 5年生 14名 4年以下 17名 エンジェルス	6年生 7名 5年生 4名 2年生 2名
-----	-------	--	----------------------------



＜後援会活動＞

高萩スポーツ少年団では、子供たちの活動を支援するため、保護者を中心とする後援会の活動を行っています。

少年団活動には、バット、ボール、ヘルメットなどのスポーツ用具の購入、野球、サッカー、ミニバスのユニフォームの購入、登録・活動費など、多額の資金が必要となります。団費・後援会費だけその資金を賄うとすれば、個人の負担が多くなるため、団員、保護者により、地域の方々の協力を得て、年に2~3回廃品回収を行い、公民館行事に合わせてバザーを行うことなどにより、活動資金の調達を行っています。

また、スポーツ活動だけでなく、子供達のレクレーション活動の企画・支援、指導者と保護者とのコミュニケーションのための慰労会など、資金面だけでなく、幅広い活動を行っています。

これらの組織を運営することはなかなか、大変

なことですが、後援会活動が充実しているからこそ、スポーツ少年団活動が維持してゆけると思います。

＜これからの課題＞

今、高萩スポーツ少年団に限らず、日高市のスポーツ少年団全体に団員の減少傾向が見られ、少年団活動に支障が生ずる事態に発展してきつつあります。

ひとつは、少子化の問題があります。兄弟・姉妹が1~2人という家庭が多くなり、何をするにも親の目が届き、つい過保護の状態になり、自分の意志だけでは行動ができない子供たちが多くなっているように思われます。

また、子供たちの遊び方についても時代とともに大きく変わってきています。ファミコン・テレビゲームなど家の中で何時間も一人で遊ぶ遊び、家族だけでの旅行、レクレーションなど、閉鎖された環境の中で過ごす時間が増えているように思われます。

これらにより、友達とか他の大人とのコミュニケーションがうまくできなかったり、社会生活に必要なマナーが欠落している子供たちが増えているように思われます。

学校の完全週休2日制の実施に伴い、学校での勉強時間が過密になり、子供たち同士で遊ぶ時間が少なくなっています。運動をして体を鍛える、集団行動でいろいろな体験を通して心を鍛える時間が少なくなっています。

スポーツを通して心と体を鍛え、またスポーツができる環境を整えることが、成長期の子供たちにとって、最も必要なことになってくると思います。

スポーツ少年団活動は、これからも子供たちの健全な成長に重要な役割を担つて行くことになると思います。

そのためには、子供たちみんながやってみたくなるような、魅力あるスポーツ少年団に脱皮し、成長していかなければなりません。



高麗 スポーツ少年団

創立年月日 昭和48年4月1日
団長 和田 正
活動場所 日高市立高麗小学校
指導者数 22名
団員数 59名 (男子42名 女子17名)

各家庭の少子化による影響で、児童数が減少している状況は、日本の多くの小中学校に共通することではあるが、特に高麗地区は、代々の家庭が多く、新たに転入してくる家庭数も少ないという土地柄のため、高麗小学校に在学する児童数そのものが、年々減少の一途を辿っている。

こうして絶対的な児童数の減少もあって、高麗スポーツ少年団の団員数も、年々暫時減少の傾向にあることは否めないが、平成14年度においても、男子42名、女子17名、合計59名の団員が、団に所属し、厳しさと優しさを兼ね備えた熱血的な指導者の下で、各競技に取り組んでいるところである。



これは、数年前までは、団員の対象を小学3年生以上としていたのを改め、高麗小学校に在学する小学生全員を対象としたことも一因ではあるが、何と言っても、スポーツ少年団の活動を支える後援会の熱心なお父さんやお母さんの協力の賜物と言うことができる。

高麗スポーツ少年団の団員は、野球、サッカー、ミニバスケットと三つの競技をそれぞれ学び、楽しんでいるが、これも、先に述べたとおり団員数が少ないとばかりではなく、小学生時代には一つのスポーツに偏らずいろいろなスポーツを経験させたいという考えも伺えるところである。

ミニバスケットは、1年を通じて行っているが、野球とサッカーは1年を2分し、4月から8月末までは野球を、9月から3月末まではサッカーに取り組んでいる。

また、ミニバスケットに取り組む団員は、現在まで全員女子であるが、野球、サッカーには、女子の団員が加わって、男子顔負けの活躍をしていた時期もあった。

応援席から見ると、高麗の団員は、他のチームの団員達と比べると、やや小ぶりではあるが、それでも、持てる力を十分に発揮すべく、日々の練習に汗を流しているし、指導者も熱心に指導に当たってくれていると感じている。

個々の種目別に試合の成果を見てみると、野球では、平成6年度に秩父・小鹿野で開催された県大会に出場したのを最後に、あまりパッとした戦績は残せていないようだ。

もっとも、平成6年度には、1学年で2チームを構成できるだけの団員数がいたということで、選手層の厚さも現在とは比較にならないところが



ある。

それでも、こうしたなか、今年度の6年生チームは、春の西部地区大会の出場権を得て、さらに上位を目指すというところまでやって来ている上、下級生のチームの中にも、目を見張るプレーをする団員の姿も多く見られ、今後の活躍が期待されるところである。

サッカーに関しても、前述のとおり体格的に恵まれていないために、体力面で、相手と互角に戦えないという一面があり、前半はリードしていくも、後半にスタミナ切れからか逆転をされるというケースがしばしば目につくところであり、こちらの方も燐然と輝くというような結果は残せていないというのが正直なところである。

こうした試合に弱い原因の一つには、闘争心や勝負に対する執着心が薄いということが挙げられると思うが、これも、常日頃、争いごとなく、のびのびと暮らしている高麗地区の多く人達に共通するところであり、団員や指導者だけにその責めを向けることはできないところである。

とはいえ、各個人を見れば、年々その技術が向上していることは、傍目からも明らかであり、こうした様子を目の当たりに見ている保護者の方々からは「年々上手になっている。」という声が良く聞かれるし、「とにかく、スポ少にいってたくさんましくなった。あきらめずにがんばるという気持ちが出てきた。」という声が多いことは、自らの休日を返上して、団員の指導に当たってくれている指導者の方々にとっても励みになるところではないだろうか。

ミニバスケットに取り組んでいる団員は、本年度ばかりでなく、各年度ともほぼ20名前後と決して多数とは言えないが、平成13年度のチームは、埼玉県下でも屈指の好チームと言われ、県大会、会長杯争奪ミニバスケットボール大会などで活躍し、愛知県で開かれている矢田杯争奪ミニバスケットボール大会にも出場するなどめざましい活躍があった。

こうして全国の強豪チームと試合をする経験を

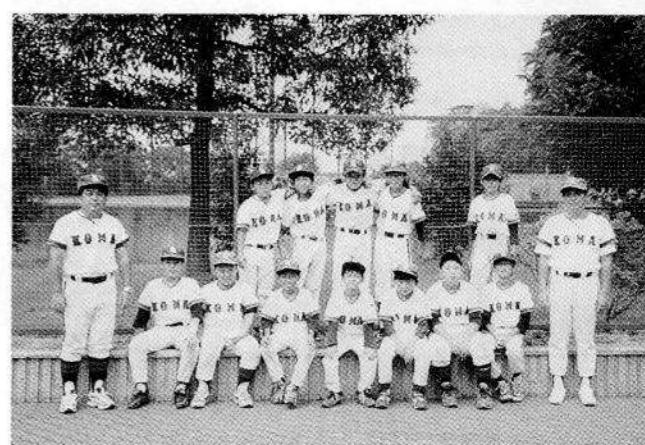
得たことは、試合の結果以上に団員の技術面や精神面の向上のための良い刺激となるとともに、親子ともども良い思い出になったものと思われる。

今年度のチームも、このお姉さんチームを目標に、各人が健闘しているところであり、今後もさらなる活躍が期待される。

さらに、最近の現象で喜ばしいことは、野球、サッカー、ミニバスケットの3種目とも、過去にスポーツ少年団の団員として活躍したOBやOGというべき人達が、若き指導者としてスポーツ少年団に戻ってきてくれ、直接、後輩達の指導に当たってくれていることである。

こうして世代交代というか、人材のスムーズな循環が成り立っていくことは、スポーツ少年団の活動を継続・発展していくために不可欠のものと言えるであろう。

このように高麗スポーツ少年団は、団員数こそ決して多くないものの、各自が自分のさらなる向上を図って、指導者の熱意あふれる指導の下、果敢に練習に励み、その成果を試合に十分に発揮すべく努めているところであり、今後もその活動ぶりを温かく見守っていただきたい。



高根 スポーツ少年団

創立年月日 昭和48年4月1日
団長 大江一蔵
活動場所 高根小学校
指導者数 12名
団員数 42名（男子24名 女子18名）



高根スポーツ少年団の団員名簿です。各チームの選手と指導者の名前を記載しています。

チーム	選手名	役割
野球部	大山正樹	投手
	都築まさき	捕手
	橋本達也	左翼
	菊池義平	右翼
	青木裕	二塁手
	藤田敦	三塁手
	武島大輝	内野守備
	鷹見翔太郎	外野守備
	新井聖人	投手
	石上るり	投手
サッカー部	高橋みさと	守備
	石井みさと	守備
	高橋みさと	守備
	清水すみれ	守備
	高橋みさと	守備
	伊船はるか	守備
	丹山はるか	守備
	岩島奈々花	守備
	岩島奈々花	守備
	岩島奈々花	守備
バスケットボール部	新井伸輔	守備
	新井農人	守備
ミニバスケットボール部	新井伸輔	守備
	新井農人	守備

昭和48年、鹿山の森に大規模な、こま川団地が建てられ、それ伴い高根小学校が、開校しました。開校と共に、戸田恵先生、三浦助藏氏のお力添えにより、高根スポーツ少年団が4月に発足し、野球、サッカーの「レグルス」がこの時、誕生しました。

続いて、昭和52年、ミニバスケットのチーム「高根コスモス」が誕生し男女揃ってのスポーツ少年団として活動が始まりました。

発足当時から、指導者として小学校の先生を中心にはじめ、団員の活動を指導していましたが、現在は、地域の一般の社会人指導者と保護者が中心となって団員が、楽しくのびのびと、そして最後まで諦めない気持ちで活動出来るように頑張っています。保護者の方々も、試合の応援に、練習の手伝いに、後援会の活動に子供以上に熱心に協力され、活動の大きな力になっています。

これからも、高根スポーツ少年団は、地域に根をおろした健全な青少年の育成の組織として活動を続けていきたいと考えています。

〈レグルス〉

◎ 夜空に輝く星座、しし座を構成する星の一つ
【野球】

高根レグルスは、前期（4月～8月）の期間活動しています。高根小学校のグラウンドを練習場所として、土曜日、日曜日、祝日に練習、練習試合そして各種大会に参加しています。熱心な指導者のものと、礼儀、規律、協力を培いそして、楽しくのびのびと全力野球を目指して、頑張っています。近年は、団員数も少なくなっていますが、全学年一丸となって活動しています。

【サッカー】

後期（9月～3月）の期間活動しています。野球と同様に、高根小グラウンドを中心に土、日、祝日に活動をしています。野球で培った基礎体力とともに、ボールを手から足に代え、寒いグラウンドを感じさせない、子供と指導者の活発な練習と試合を行っています。現在は、メンバーがぎりぎりですが、一人一人が各目標に向かって活動をしてい

ます。野球共々、試合等では、保護者の方々の熱い応援で盛り上がっています。

〈コスモス〉

◎ 果てしなく広がる宇宙＆可憐な花コスモス

【ミニバスケットボール】

高根コスモスは、一年間を通じてミニバスケットボールを行っています。高根小学校体育館を活動場所として、水、金、土、日曜日の週4回と祝日に練習、練習試合、各種大会に参加しています。一生懸命練習し、一人一人の技術だけでなく、チームワークの大しさと思いやりの心を養い、立てた目標に向かって努力しています。その結果、各大会で良い成果を發揮することができました。これからも、指導者、保護者共々、子供達と一緒に感動のある活動をしていきます。

☆ 主な成績

平成3年	全国大会出場	関東大会出場
平成6年	会長杯	準優勝
平成10年	県大会	優勝

【後援会】

後援会活動は、後援会会長を中心に、保護者の協力の下、ミニキャンプ、ハイキング、スポ少祭り、一泊二日の卒団記念合宿等、の年間の行事と、子供達の活動に必要な用具を購入する為に、年数回の廃品回収を行っています。スポ少を支えていく為の、縁の下の活動ですが、保護者のご理解と協力のおかげで活発な活動となっています。



高萩北 スポーツ少年団

〈団長挨拶：杉山博行〉

30周年おめでとうございます。

10年ひと昔と言いますが、30年と言うと、さん昔になるんですね。スポーツ少年団を巣立っていった子供達は30年で何人になるんだろう。

北スポーツ少年団だけで20数年で2千名強になっている。最初に卒団した子供達は、今社会の中心となっていろんな場面で活躍しているんだろう。そういう年齢だもんな。

これからどうなるのかな？ 少子化はずっと続くんだろう。入団する子供達も少なくなっている今、30年を節目にしてもう一度原点に戻って少年団活動を考えてみよう。年毎に大きく発展してきた組織が、これからは少しづつ小さく小さくなっていく。さけられない事実だ。子供を主役にして、指導者・後援会が心を一つにして「活動の輪」を広げて行くために何をしたら良いのか。40年、50年と続けていくためにみんなで元気を出して考えてみよう。

〈後援会長挨拶：松本 勇〉

日高市スポーツ少年団創立30周年にあたり、市職員ならびに、本部役員の皆様方のご尽力に大変感謝申し上げます。高萩北スポーツ少年団も本年創立25年目を迎えますが歴史の1ページに参画できるのも歴代団長、後援会長をはじめ指導者の方々、及び後援会の皆様のおかげだと痛感しています。

高萩北スポ少精神に根忍知和（こんにちは）という言葉があります。

根=根性・気力 忍=忍耐・忍術

知=知る・判断 和=和氣・和合・なか良く

厳しい練習の中で結果のみに囚われる時代であります、大人になっていく過程の中でこれらの言葉は必要不可欠だと思います。そして何よりも、

『こんにちは』と挨拶のできる子供たちになって欲しいと思っています。日高市スポーツ少年団の増々の発展を祈念し挨拶とさせて頂きます。

創立年月日 昭和53年4月15日

団長 杉山博行

活動場所 高萩北小学校

指導者数 15名

団員数 85名（男子47名 女子38名）

〈歴代の団長及び後援会会長〉

初代	平井満洲男	田富七	太田富七会長
2代目	橋本 昌治	小林淳一	小林淳一会長
3代目	清野 武	駒野紀夫	駒野紀夫会長
4代目	鎌田 伸	佐野昭光	佐野昭光会長
5代目	遠藤 清	沢田幸一	沢田幸一会長
6代目	松田 征彦	福島 清	福島 清会長
7代目	杉山 博行	水村和好	水村和好会長
8代目		柳田嘉弘	柳田嘉弘会長
9代目		駒野隆治	駒野隆治会長
10代目		松本 勇	松本 勇会長

〈野球活動の概要：若林 清〉



昭和53年4月に結成以来、基礎体力の充実を目標とし野球技術の向上に努力しています。又、野球を通じて礼儀、規律、努力などの道徳観も培ってきました。この事により高萩北地区における青少年の健全な育成に微力ながら貢献できたように思います。野球の練習期間は4月から8月までの約5ヶ月間です。7月半ばに開催される「日高市長杯野球大会」での活躍を目指して練習に励んでいます。近年では、団員数の減少で1学年で1チーム組めるかどうかの状況であり、各指導者とも子供が好きで、かつて自分達が野球に熱中したその想いを、少しでも子供達に伝える事が出来る様に頑張っています。

〈サッカー活動の概要：長谷川俊一〉



高萩北アンタレスのサッカー活動は、4月から始まった野球が終わる8月頃から各学年毎、サッカーに切り替わります。9月中旬に6年生の四市大会を皮切りに青梅武蔵秋期（9月）、冬季（1月）大会、日高市長杯（12月）、坂戸交流大会（2月）、千代田杯（2月下旬）、各学年毎の日高カップ及び3年生以下のミニサッカー（2月中旬）と各大会へ参加をしています。また、3月に入って卒団記念としてアンタレスの2～6年生全員をチーム分けして団長杯を行っています。以上が主なサッカーの活動です。

なお、去年まで野球にサッカーにと使用し、市長杯等、各大会のメイン会場であった思い出いっぱいの旭ヶ丘グラウンドが使用出来なくなってしまったのが残念です。

〈ミニバス活動の概要：高篠久美子〉



日高市スポーツ少年団30周年おめでとうございます。高萩北チエリーズでは、土・日を中心についつも明るく、元気にミニバスケットボールを頑張っています。3年生から6年生までみんな仲良しで、困ったときにはお互いに協力し合っています。また、マナー低下が叫ばれている現在高萩北では、あいさつの大切さを重視しています。朝の「おはようございます！」から帰りの「ありがとうございます！」まで、どんな時も大きな声で元気よくあいさつのできる子供たちです。一回一回の練習を大切にし、レベルアップに励んでいきたいと思います。そして、卒団しても元気な顔を見せに来てくれるチームにしたいと思います。最後に、日高市スポーツ少年団のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

うございました、さようなら！」まで、どんな時も大きな声で元気よくあいさつのできる子供たちです。一回一回の練習を大切にし、レベルアップに励んでいきたいと思います。そして、卒団しても元気な顔を見せに来てくれるチームにしたいと思います。最後に、日高市スポーツ少年団のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

〈アンタレス6年キャプテンの一言：松本愛彦〉

日高スポーツ少年団30周年おめでとうございます。私達6年アンタレスは男子11名、女子1名の12名で日々練習や試合に頑張っています。野球とサッカーはみんな大好きです。スポ少最高

〈アンタレス5年キャプテンの一言：仲 秀幸〉

30周年おめでとうございます。ぼくのお兄ちゃんもスポ少に入っていました。時々練習を手伝いに来ます。ぼくも卒団したら行きたいと思います。これからも楽しいスポ少でいてほしいです。

〈アンタレス4年キャプテンの一言：高沢勝秀〉

スポ少30周年おめでとうございます。ぼくたちは、練習をかさねてがんばっています。まだまだだけど練習をして、試合に勝ちたいです。

〈アンタレス3年キャプテンの一言：古沼侑馬〉

ぼくは、スポ少がたのしいです。3年生は人数がすくないので、たくさんともだちが入ってくれたらうれしいな。

〈チエリーズ・キャプテンの一言：斎藤友美〉

今年、私はスポ少の30周年を、キャプテンという立場で迎えることができて、とてもうれしいです。これからも、もっと、このスポーツ少年団が続いているといいと思います。

〈チエリーズ5年代表の一言：田宮さおり〉

私は1年のころからミニバスに入っています。最初は、ドリブルもままならないまったくの素人でした。でも、コーチ達の指導や上級生の協力でとても上達しました。私はミニバスが大好きです。

〈チエリーズ4年代表の一言：西山道子〉

バスケをして足が速くなり友達もふえました。試合は5人で力をあわせないと勝てません。練習はきつてもがんばるぞ。バスケ最高

〈チエリーズ3年代表の一言：工藤沙也果〉

ミニバスに入ってバスケがうまくなりよかったです。せんぱいやコーチが優しく教えてくれます。フレッシュで1試合勝ってうれしかった。

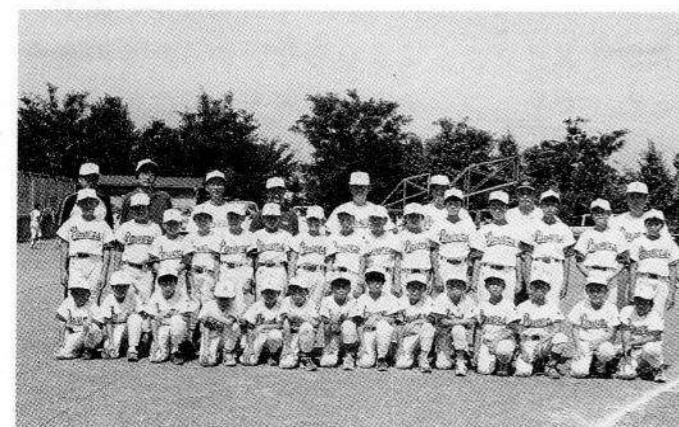
武藏台 スポーツ少年団

創立年月日 昭和55年5月8日
団長 田中正人
活動場所 武藏台小学校
指導者数 36名
団員数 73名（男子61名 女子12名）

武藏台スポーツ少年団は、昭和55年5月に武藏台小学校を活動の場として誕生しました。市内6団の中で一番新しい少年団です。当初は、武藏台地区の子供達だけでしたが、横手台に分譲団地が形成されてからそこの児童もメンバーに加わり現在では横手台地区の児童数が上まわってきてています。野球部、サッカー部、ミニバスケット部の3部が通年で活動しています。平成14年度の団員は、総勢73名です。発足当初は、小学校の先生方が中心になって団員募集から指導までを行っていましたが、現在は、すべての運営を現及び元父母で行っています。

現在の、団の大きな悩みは、年々団員が減っていくことです。小学校の児童数の減少が一番の原因です。ただし、スポ少で活動してみようと思う子供達、また参加させてみようという父母の方々が少なくなっていることも大きな要因の一つのようです。勉学とスポーツ活動を両立させ楽しくのびのびとした生活を送りましょうと団員募集の時呼びかけているのですが。

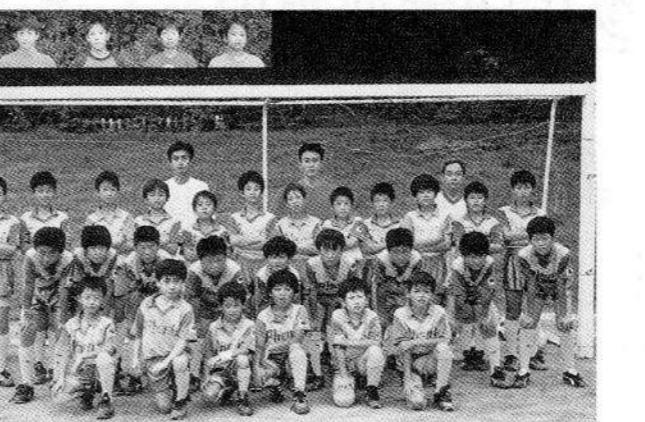
野球部



武藏台パワーズは、市内6団の中では一番新しいチームですが、過去には輝かしい戦歴が残っています。現在の野球部の学年別構成は、6年生13

人、5年生5人、4年生7人、3年生以下5人の合計30人です。年々少なくなっていますが、過去の栄光を取り戻すべくみんな一生懸命頑張っています。6年生チームは、市内のリーグ戦や、市長杯では好成績を残しましたが、市外での試合になると良い成績が残せない状態が続いていました。どうも選手みんなが内弁慶のようです。グランドでも大きな声がない、粘りがない淡泊なチームでした。しかし、日頃からの監督、コーチの指導のおかげで、バッターボックスに入っても大きな声を出すようになりました。守っても投手を励ますようになりました。7月に入り市長杯で劇的なサヨナラ逆転劇を演じて優勝し、また飯能防犯大会では粘りのある試合を続け準優勝となりました。チーム一丸となって楽しく戦うというパワーズの伝統がよみがえっています。5年生以下のチームは人数構成から単独チームを構成することが難しい状況ですが、リーグ戦も市長杯も3位と頑張っています。このチームは、前からみんな大きな声がよく出る子どもが多いので来年、再来年とパワーズの伝統を守ってくれるものと思います。ともあれ、今後とも武藏台パワーズを存続させるために団員を確保する事が我々関係者の宿題となっています。

サッカー部



武藏台FCフェニックスではサッカーの大好きな子供達が年間を通してサッカーを行っています。サッカーは1チーム11名必要ですが近年の児童数の減少に伴い1学年で1チーム出来なくなっています。そこで下の学年と合わせてチーム編成することになりますが、このことがかえって学年を意識しない付き合いが出来ており良い方向に働いていると思います。この他、毎年宿泊を伴う合宿や親子サッカーを行って親子のコミュニケーションもとれるような行事を考えて実施しています。

もちろんこういった行事だけでなく、毎週サッカーの練習を行い着実に力をつけ昨年も優秀な成績を残しました。

昨年度（平成13年度）の主な成績

西部地区サッカー育成大会：5年3位
日高市長杯争奪少年サッカー大会：
6・5年優勝
芳野スポーツ少年団親睦大会：6年準優勝
日高カップ少年サッカー大会：5年優勝
4年準優勝

ミニバスケット部



スポーツ少年団結成30周年 おめでとうございます。

考えてみると、スポ少結成当初所属していた子供達が成人し、そうです、丁度我々の年代です。そして今、また我が子が活躍する場を与えてくれるスポ少、何と歴史のある、息の長い集いの場でしょう。それぞれのチームの指導者、関係者、父兄、地域の方々、その他のたくさんの方々に支えられて成り立ってきました。心より感謝いたします。

わが娘はミニバスケットチームに入団させて頂いて2年半になります。入団のきっかけはささいな事でした。元々運動神経だけは人並み外れたものを持っているとおもっていました。ですが、当時は下校後特に何をするわけでもなく、ゲームで時間が過ぎる...青春時代を部活、部活で明け暮れた私にはその姿が何ともはがゆくて、「ミニバスやってみる？」と説きました。有り余ったパワーを発散できる場を見ついた娘は「水を得た魚」の様に生き生きと、毎日体育館へ向かいました。雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も。自分が上達していく事が、チームが強くなっていく事が何より楽しかった娘。

この春、そんな武藏台メイツを長年にわたり暖かく、時には厳しく指導をしてくださっていた四平幸夫コーチが他界されました。あまりに急な事に、子供達は悪夢を見ているかのように...泣いて泣いて、そして誓いました。強くなると。目標に向かって皆で頑張ると。でも、まだまだ幼い小学生の集団です。日々色々な事があり、迷い、苦しみ、挫折し、目標すら見失いそうになり...けれども、その挫折さえも宝物に変えて欲しい。何度も経験しそして何度も起きあがって欲しい。亡きコーチが望んでいたのもきっとそうして強くなるあなた達です。娘を見守り、チームを応援する親の一人として、毎日願っています。スポーツを通し、心身共に成長する機会を与えてくださるスポーツ少年団に感謝し今後もかわらず発展されますよう、陰ながら応援させていただきます。

日高市スポーツ少年団本部規則

- 第1条 本団体は、日高市スポーツ少年団本部（以下「本部」という。）と称する。
- 第2条 本部は、日高市教育委員会事務局内におき、事務所は本部長指定の場所におく。
- 第3条 本部は、日高市内における各スポーツ少年団をもって組織する。
- 第4条 本部は、スポーツを通じて少年の心身の鍛錬と健全な育成を図る。
- 第5条 本部は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) スポーツ少年団の登録
 - (2) スポーツ少年団の指導者及びリーダーの養成
 - (3) スポーツ少年団を主体とする各種スポーツ大会の主催及び後援
 - (4) スポーツ少年団の指導者及び団員研修会の開催
 - (5) 県内スポーツ少年団との交流
 - (6) 関係諸団体との連絡、調整
 - (7) その他目的達成のための事業
- 第6条 本部に次の役員をおく。
- (1) 本部長 1名
 - (2) 副本部長 2名
 - (3) 理事 若干名
 - (4) 幹事 2名（うち1名は教委）
 - (5) 会計 1名
 - (6) 監事 若干名
 - (7) 顧問 若干名
- 第7条 役員の選出は、次のとおりとする。
- (1) 本部長、副本部長は、日高市在住または在勤し、青少年のスポーツ振興に深い理解を持つ人を理事会において推薦し総会において承認する。
 - (2) 理事は、次の各号により選出し、定数は別に定める。
 - a. 各スポーツ少年団の団長及び専門委員長
 - b. 市内在住、在勤の学識経験者
 - (3) 幹事及び会計は、理事会の承認を得て本部長が委嘱する。
ただし1名は、教育委員会事務局職員とする。
 - (4) 監事は、理事会において選出する。
- 第8条 役員の任務は、次のとおりとする。
- (1) 本部長は、本部を代表し、会務を総括する。
 - (2) 副本部長は、本部長を補佐し、本部長事故あるときはその職務を代行する。
 - (3) 理事は、理事会を構成し、本部の予算、決算、事業計画、役員の改選、規則の改正等、重要事項を審議する。
 - (4) 幹事は、理事会の決定に伴い、会務を執行する。
 - (5) 会計は、経理を処理する。
 - (6) 監事は、経理を監査する。
 - (7) 顧問は、本部長の諮詢に応じて会議に出席することができる。
- 第9条 役員の任期は、次のとおりとする。
- (1) 役員の任期は、2ヶ年とする。但し、再任を妨げない。

- (2) 役員が欠員したときは、理事会において補欠役員を決定する。
なお、任期は、前任者の残任期間とする。
- 第10条 本部に、理事会の承認を得て、名誉本部長、参与をおくことができる。
- 第11条 総会は、本部長、副本部長、理事、幹事、会計、監査等の役員及び各団の指導者をもって組織し、本部長が招集し議長となり重要事項を審議、決定する。但し、理事会をもってこれに代えることができる。
- 第12条 会議は、定員の半数以上をもって開き、出席者の過半数をもって決議される。
- 第13条 本部に専門委員長をおく。専門委員会の規約は別に定める。
- 第14条 本部の経費は次のもので支弁する。
- (1) 負担金
 - (2) 補助金
 - (3) その他
- 第15条 負担金の額は別に定める。
- 第16条 本部の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終える。
- 第17条 本部規約上、必要な細則、規約等は、理事会において定める。
- 第18条 慶弔規定 役員及び各委員に対する慶弔慰金の交付について
(1) 本人、同居する家族（配偶者、子、親）を対象とする。
(2) その他については本部長に一任する。
- 第19条 この規約は、昭和48年1月19日より施行する。
- ・昭和55年5月31日改正
 - ・昭和57年5月15日改正
 - ・昭和58年5月29日改正
 - ・平成9年5月29日改正
 - ・平成10年5月16日改正

細則

- 第1条 負担金の額は、次のとおりとし、毎年5月31日までに事務局に納入する。
- ・団員1名につき 1,000円
 - ・指導者1名につき 1,000円
- ※平成7年5月6日改正

専門委員会規約

- 第1条 本部に次の専門委員会をおく。
- (1) 野球委員会
 - (2) サッカー委員会
 - (3) バスケット委員会
- 第2条 専門委員会の主な事業は、次のとおりとする。
- (1) 日高市スポーツ少年団主催の各種大会の企画、運営
 - (2) 交流試合等の企画、運営
 - (3) その他
- 第3条 各専門委員会に、次の役員をおく。
- (1) 専門委員長 1名
 - (2) 同副委員長 1名
 - (3) 会計 1名（副委員長が兼ねることができる）

記念誌発行協賛者名簿一覧 (順不同)

協賛者	住所	電話番号
牧本 征雄様	日高市女影新田2-2	89-4919
関谷 幸男様	日高市女影149-8	89-0487
金島 清志様	日高市女影1861	89-0771
中野 勝土様	高萩スポーツ少年団OB会会長	85-1262
関 一美様	関製作所(光学器械)	89-3094
一品香様	日高市高萩2287-5	85-4265
太田 幸咲様	高萩北スポーツ少年団(元指導者)	
遠藤 清様	高萩北スポーツ少年団(元団長)	
森崎 成岳様	日高市下高萩新田130-77	89-9388
秀寿し様	日高市下高萩新田128-43	85-0775
(有)高橋石材産業様	日高市高萩2176-126	85-1672
太田 新治様	日高市高萩229-4	
長屋 照夫様	日高市高萩2265-2	89-2589
八輝会様	高萩北アンタレス平成9年度卒団生一同	
中野 恒男様	日高市梅原67	89-2646
辰巳屋様	日高市榆木195-10	89-4909
(有)はしば様	日高市栗坪234	89-1019
中野 肇様	日高市梅原26	89-2638
(有)河内屋酒店様	日高市栗坪232	89-1010
(有)クロゴメ様	日高市梅原73	89-1031
関口屋様	日高市横手430-4	82-3657
セブンイレブン日高麗本郷店様	日高市高麗本郷191-5	82-0140
カフェレストランカントリーバーグス様	日高市栗坪18-7	89-8293
手打うどん しょうへい様	日高市台191-5	82-0071
こま武藏台自治会様		
こま武藏台ショッピングセンター様		
西武横手台自治会様		
植木 長岡農園様	日高市馬引沢187	89-1770
関口溶接様	日高市大谷沢417-1	89-0562
造園 井上園様	日高市高萩568-4	85-7018
共栄ドライ高萩店様	日高市高萩591	89-9641
犬竹工務店様	日高市馬引沢179	89-2634
(有)千曲商会様	日高市高萩781-1	89-1485
中山酒店様	日高市田木86-3	89-2281
(有)水村商店様	日高市高萩52-1	89-2022
(有)関口商店様	日高市大谷沢486-2	89-1846
(株)アサヒプロイラー埼玉工場様	日高市大谷沢275	89-2351
高麗川団地ショッピングセンター様	日高市高麗川団地	
和田スポーツ様	日高市鹿山211-10	85-0242
タバコ・フーズ・リカーショップ ユウユー様	日高市下鹿山492	89-5418
(有)栗こま娘本舗 亀屋様	日高市下鹿山491-9	85-5685
とん太様	日高市中鹿山471-18	89-5755
サイクルハウス ひで様	日高市中鹿山452-91	85-3044
(株)タカヤマ日高ゴルフプラスワン様	日高市下鹿山488	85-0001
割烹 利久様	日高市鹿山219-7	89-5754
ヘアーサロン カタオカ様	日高市中鹿山128-2	85-3842

(株)アイドハウス様	日高市原宿271-1	89-1630
飯能信用金庫 日高支店様	日高市上鹿山89-7	89-1151
(株)松本木材店様	日高市南平沢379	89-0023
日栄スポーツ様	日高市原宿215-21	85-0358
介護老人保健施設 日高の里様	日高市久保96-1	82-3333
内科・小児科 横田医院様	日高市鹿山370-2	89-0695
K.Oスポーツ様	日高市鹿山477-6	85-1399
奥田整形外科様	日高市南平沢370	84-1234
西武酪農乳業株式会社様	日高市野々宮145	89-1331
(株)俊英館 日高中央校様	日高市上鹿山37-17	84-1177

編集後記

9月に入ってもまだ残暑が続いていますが、スポ少の部員達は、この暑さにも負けず試合に、練習にと励んでいます。我々記念誌発刊専門委員会のメンバーもこの暑さに負けずに頑張っています。専門委員会のメンバーは、6団の代表者と各専門部の代表者より構成されています。4月より本格的な活動を開始し、記念誌「あゆみ」の構成、原稿執筆依頼から、各団の紹介記事の執筆とあわただしく時を過ごしてきました。この間、「あゆみ」の巻頭を飾る人文字写真の撮影を行うこととなり、7月6日高根小学校で決行しました。しかし、これが事前準備なしの即本番、どうなることと心配しましたが、我らメンバーのまとめ役(名幹事長)高根の吉田さんの号令のもと短時間で撮影を終了させることができました。できれば、巻頭の写真をとくとご覧ください。

最後になりますが、「あいさつ文」執筆を快く引き受けくださいました関市長および関係者の方々、及び「30周年のあゆみ」を執筆くださいました歴代の本部長の方々にこの紙面を借りてお詫び申し上げます。どうもありがとうございました。また、30周年の記念事業に協賛金を拠出してくださいました方々にもこの紙面を借りてお詫び申し上げます。どうもご協力ありがとうございました。

(文責:古賀尚宏)



記念誌編集委員

金島 清志 (準備委員長)	立野 靖彦 (高麗川スポーツ少年団)
岡野 一平 (準備委員)	鈴木 敏 (高麗川スポーツ少年団)
牧本 征雄 (準備委員)	鳥居 政男 (高萩スポーツ少年団・野球専門部)
多田 威 (準備委員)	小俣 徳藏 (高麗川スポーツ少年団)
金子 博 (準備委員)	大江 一蔵 (高根スポーツ少年団)
松尾健次郎 (準備委員)	吉田 俊次 (高萩北スポーツ少年団)
吉田 久志 (準備委員)	古賀 尚宏 (武藏台スポーツ少年団)
松田 征彦 (準備委員)	皆川 泰山 (サッカー専門部)
望月 修 (準備委員)	矢田 敏朗 (ミニバスケット専門部)

日高市スポーツ少年団

あゆみ

平成14年11月30日発行

発行 日高市スポーツ少年団

印刷 株式会社 文化新聞社

